

評価確定日:平成31年3月20日(水)

行政報告日:平成31年3月27日(水)

(別紙2-4)

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	(福)苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市から千葉県、埼玉県で老人医療福祉医療について事業を展開しています。事業所は開設11年目。 ・利用者様を「お客様」にせず、自宅で生活していくために必要な家事や運動機能について職員と一緒にしながら維持、改善していくこと、訪問・通い・宿泊といったサービス調整で入所せずに自宅での生活が継続できることを目的としています。 ・認知症介護実践者研修に職員を積極的に輩出し認知症になっても住み慣れた地域で生活ができるよう地域理解や、周辺症状の改善に繋がるケアについて考え実践しています。
事業所名	健康倶楽部ゆざわ	管理者	南雲未来		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	1人	2人	1人	0人	14人	0人	21人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・全員には難しいが町の特色でもある地区保健師制は家族・地域との繋がりが深いことを再認識し、特に独居と家族に疾病や困難ケースに関してはピックアップし年間のモニタリングや更新計画を作成し地区保健師を含めた担当者会議を開催していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用時や困難ケース等は、可能な限り前事業所のケアマネや担当保健師を交えてのサービス担当者会議を開くよう日程調整を行い実施している。 ・当日の状況について情報共有を確実に行うため、業務日誌の書式を変更し誰でも把握しやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議にインフォーマル支援者の参加を調整できればよいが、担当者会議に地区担当保健師を加える、ケアマネのアセスメントの段階でそれらの情報を得て担当者会議で提示するとよい。 ・利用者が一人で過ごす時間を少なくするために、傾聴ボランティアの活用はどうか。 ・運営会議、事例検討、小規模多機能の学習会を利用者、職員と一緒に行うなどテーマを設けて話し合う機会をもうけてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けてインフォーマルサービスを地図にまとめていく。自宅一人で過ごす方に傾聴ボランティアさんがいることを発信していく。 ・家族や地域の方に小規模多機能についての勉強会を開き、地域資源として施設の在り方を伝えていく。 ・事例検討を一般職員を交えて運営推進会議の中で行っていくことを検討していく。 ・新オレンジプランの認知症カフェの位置づけについての勉強会を行うことで、認知症カフェのあり方を見直していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の要望をお聞きしながら、ビフォーアフターで可視化した環境評価を行い、自立支援を促せ、自然にコミュニティが作れる空間を作る。 ・居室空間の充実も図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家具を増やしたり、配置を変更したりしてお客様がくつろげる環境が整ってきた。来年度には大きめのソファを購入する予定でいる。 ・季節毎に設えを変え、季節を感じていただけるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室不在時の案内や呼び鈴をわかりやすくするなど欲しい。カーテンを閉めただけの状態では閉鎖的、拒絶感を感じるため、明るい雰囲気案内表示など工夫をお願いします。 ・しつらえ、室内環境の中に利用者の興味や関心のある品物を設置していつでも作業や利用ができるようにしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファを購入し更にお客様同士がくつろげる場にフロア内のレイアウトを変更していく。 ・各テーブルにお茶セットを置き、いつでも自由にお茶が飲めるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域老人クラブの方も運営推進会にお誘いし情報共有を図る。 ・家族の同意をとった上で利用者や地域の心配な方の運営推進会議を活用し、行方不明の可能性のあるお客様の情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事、認知症カフェや納涼祭などを通じて地域住民の方々との交流ができています。認知症カフェでは介護相談もあった。また、カフェでヤクルトの健康教室(12月)を開催している。 ・馴染みの商店での買い物も同行し地域との関わりが切れないように支援している。 ・地域資源についてのマップ作成ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動やイベント、サロンなどの取り組みを通じて設置町内を中心に理解が深まっている。 ・施設の納涼祭の案内が回覧されるが、地域の住民の中には施設の納涼祭は自分たちが参加するものではないと感じている人もいる現状がある。 ・施設がある事はわかるが、サービスを理解している人は少ないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェに合わせてサービス特性についてや、認知症についてなどミニ講座を行うことを年間スケジュールや毎月のチラシに載せ、地域の方に施設や認知症について知っていただく機会を設けていく。 ・地域の方から周知されている認知症カフェの場を最大限に活かし、地域とのかかわりを深めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のケアの継続 ・キャラバンメイト養成講座を開催し、町にメイトを増やしサポーター養成講座を各地域で開催するお手伝いをする。(10月) ・湯沢学園でのサポーター養成講座の開催(1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞祥庵にてカフェの開催(7月) ・探索訓練年2回実施(1回は夜間想定)、サポーター養成講座はタクシー協会(4,5月)や道路公団(6月)に実施した。10月に湯沢町が行ったキャラバンメイト養成講座に2名参加し新たなメイトを増員することができた。 ・予防事業に継続して参加できるよう身支度の支援や送迎をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェの参加者が、別の機会に施設の除草作業ボランティアに参加しており、近隣の方々が施設の活動に参加している様子がある。 ・まずは、職員が「利用者一人一人に対し、自分たちが地域に向向いて利用者本人の暮らしを支えている」実感があるかどうか。どういふことがあると実感できるのか話し合ってみたらどうでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブとのかかわりを増やし、今後も草取りボランティアなど継続した関係性の維持に努めていく。 ・地域サロン地区内に小多規利用者がいるときには、一緒に参加し、地域とのつながりが継続できる関係性の維持に努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェを介護や認知症に関する様々なことの相談の場として機能させる。家族同士の悩みの共有の場などへ活性化。(開催月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のカフェには、介護相談窓口担当の職員を配置し、介護で悩みを持つ方や相談に来られた方の対応がスムーズに行えるようにした。 ・納涼祭では地域消防団からお手伝いいただき盛大に行うことが出来ている。地域の祭りと認識されるよう今後も展開していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の中で、看取りをした利用者の状況報告などがあつたが、進め方やまとめの工夫が必要だが、事例検討なども取り入れてみてもよいのではないか。運営委員の小規模の理解も深まると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小多規での看取りについて、今後施設での看取りを検討していきたいため、運営推進会議の場の中で話し合いを進めていく。 ・毎回一言でもいいので参加者に発言してもらう時間を作っていく。(テーマを決めたり、近況報告など)
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練は消防団との時間の調整もあり平日は厳しいが、事業所の行方不明探索訓練や部分訓練やミニ訓練等は運営推進会議の時間を使用し防錆訓練を開催してみることで、委員の皆さんに実際を感じていただく。(1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も総合防災訓練を2回実施し、地域の消防団から協力いただくことができています。地域の方からの参加が少ないため、興味を持っていただけるような仕掛けを取り入れ実施していきたい。 ・行方不明探索訓練には行政職員からも参加していただき次の課題がみつきり、今後の手順書の更新に活かせる内容となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の避難訓練を実施できたこと。課題もみつきり成果は大きかったと思う。他施設にも波及できると良い。 ・防災・災害時難しいけれど、とっさに起きる事だから、人間(職員も)冷静に対応できるとは。その中でやってもらえた事に感謝の心を持ちたい。防災訓練に参加してみたい。 ・町の災害避難所指定を受けられるとよいが調整が進展していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所の指定を受けるために、関係行政と連携を取り計画的に話を進めていく。 ・地域消防団との連携を深め、総合防災訓練だけでなく、行方不明探索訓練への協力も依頼し地域の見守りの目が広げられる関係性を作っていく。 ・地域消防団の方から次年度より運営推進会議のメンバーにも入っていただくよう依頼していく。